厚生労働科学研究費補助金
子ども家庭総合研究事業

住民参画と保健福祉の協働による
子育て機能の向上・普及・評価に関する研究

平成１８年度 総括・分担研究報告書

主任研究者　前川　喜平

平成１９年３月

目　　次

Ⅰ．総括研究報告
住民参画と保健・福祉の協働による子育て機能の向上・普及・評価に関する研究
前川喜平 ---------- 5

Ⅱ．分担研究報告
１．住民参画と保健・福祉の協働による子育て機能の向上・普及・評価に関する研究

１）育児支援に必要な階層化モデルとリーダーの条件
前川喜平 ---------- 9

２）「ＮＰＯ法人子育てコンビニ」の活動について（事例報告 その２）
熊井利廣 ---------- １２

３）小児科医と小児歯科医の協働による子育て機能の向上について
高木裕三 ---------- ２５

４）子育て支援への住民参加を促進するための養成と活用システムの体系化に関する研究　－東京都板橋区の事例を通して－
中村敬 ---------- ３２

５）地域の医療機関・助産施設と保健機関とが連携した子育て支援ツール「ハローファミリーカード」導入後の短期的評価
山崎嘉久　秋津佐智恵　塩之谷真弓　岩田徹也 ---------- ３６

６）緊急サポートワークに関する研究
松田博雄 ---------- ５１

７）「父親の育児参加の促進による子育て機能の向上と評価」に関する研究
新津直樹　川辺修作 ---------- ５６

８）母子愛育会愛育班活動における三世代交流と子育て体験学習の実績
山口規容子　岸本節子 ---------- ６４

9）幼児へのタッチケアの読み
吉永陽一郎 ---------- ６８

10）地域における子育てネットワークと協力して行った子育てプログラム
加藤則子　須藤紀子　柳川敏彦　石津博子 ---------- ７４

２．健やかな子育てのための妊娠・育児中の飲酒・たばこの防止
小児の事故防止対策の推進及び環境の整備に関する研究

１）健やかな子育てのための妊娠・育児中の飲酒・たばこの防止
小児の事故防止対策の推進及び環境の整備に関する研究
東海林文夫　山中龍宏　山口鶴子　平野宏和　吉原安志 ---------- ７７

２）小児の傷害予防への科学的アプローチ
チャイルドシートの問題に対する取り組み２
東海林文夫　木村陽一　山中龍宏　掛札逸美　西田佳史 ---------- ８６

３）板橋区における発達の遅れが疑われる児の療育に携わる社会資源の利用状況の調査
山口鶴子　平野宏和　松尾隆　藤野睦子　桐生宏司 ---------- ９３

３．学校における子どもの心の問題に対応する医療・心理・教育の協働システムの研究
古荘純一　松嵜くみ子　根本芳子　久場川哲二　曽根美恵　柴田玲子
武智信幸　山下裕史朗　渡辺修一郎　加我牧子 ---------- ９９

Ⅲ．研究者名簿 ---------- １１２

平成１８年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭研究事業）

住民参画と保健福祉の協働による
子育て機能の向上・普及・評価に関する研究
総括研究報告書

主任研究者　前川　喜平　日本小児協会理事

研究要旨

健やか親子２１推進のため次の研究を行った。

１．住民参画と保健福祉の協働による子育て機能の向上・普及・評価に関する研究（前川）では、ハローファミリーカードによる周産期よりの試み、保育園におけるタッチケア、親育て前向き３Ｐプログラム、支援者講習プログラム、歯の問題の統一的考えなどを行った。

２．妊娠・育児中の飲酒・喫煙防止と小児の事故防止対策の推進及び県境整備に関する研究（東海林）では、葛飾区における妊産婦と家族に対するタバコとアルコールについての健康教育と評価についての研究を行った。

３．学校における子どもの心の問題に対応する医療・心理・教育の協働システムの研究（古荘）では、川崎市において専門医による学校訪問を行い、学校現場におけるさまざまな問題を提起した。具体的にはいじめと不登校、発達障害の理解の対策、虐待などの背景、学校関係者や子ども達の疲弊と抑うつ感情、子どもたちの自殺企図の増加、保護者の権利意識の増加の顕在化などである。中学生のＱＯＬ尺度の信頼性と妥当性の研究を中学生2826名（男子1440人、女子1486人、有効回答率９２％）を　　対象として調査を行いその結果を分析した。

Ａ．研究目的と主旨

健やか親子２１推進のための基礎的研究をおこなう研究班であるが、第１、３，４課題の３つの分担研究より構成されている。従って一つのことに焦点を絞って研究をおこなうことができないので、それぞれの課題の到達目標を達成するために役に立つであろうと考えられる複数の萌芽的研究をおこなった。即ち、(現場）での実践活動を踏まえて保健福祉との連携、喫煙・飲酒防止及び子どもの事故防止の啓発、さらに学校、心理、医療等の連携による子どもの精神問題のスクリーニングと支援システムの研究により、問題の解決につなげることが可能となる。健やか親子２１到達目標を達成するために、地域における子育て機能の向上に地域で実現可能な方策を提起することを目的とする

Ｂ．研究方法と成果

前川班：

① 周産期よりの虐待防止を含めた地域全体の支援システムの構築の試みが、西尾地区においてハローファミリーカードを使用したあいち小児保健医療センター保健部が中心となって１８年１月より進行中である。さらに、病児のための緊急ネットワーク等の試みを実施し、これらの試みは地域の育児不安の軽減、児童虐待予防にも有効である。地域住民と医療保健関係者の一体感を生み、地域全体の子育て機能の向上に役立っている。１９年度は　刈谷地区でも行う予定である。

②保育園におけるタッチケアの試みが驚くほど効果があることが判明した。さらに多数の保育園に拡大し　効果判定のプロトコールの作成や、保育園ばかりでなく障害児などにも行い効果を挙げている。この場合、保育士が心を篭めて行うことが必要である。

③小児科と小児歯科の保健検討委員会：心理、臨床栄養士も加わり活発な活動を行なっている。全国１９歯科大学の全国３万名の生歯時期調査で、我が国の子どもは欧米と比較して生歯時期が遅いことが判明した。この結果を基にして「歯の生え方と幼児食の進め方」を指しゃぶりに引き続いて作成した。　イオン飲料とむし歯についてはメーカーが我々の考えに従ってイオン飲料の組成を変更した成果がみられた。

④支援者研修システムの体系化を板橋区の講習プログラムをモデルとして作成した。１８年度は一般の支援者、３級の講習・実習を施行し、受講者の登録を行った。１９年度は支援センターに勤務する２級（５０時間）の講習をおこなう予定である。

⑤地域における育児支援をスムースに行うために、リーダーの条件、支援の階層化、支援能力による分類などを試みにまとめた。

⑥親育ての前向き３Ｐプログラム：　埼玉県和光市、和歌山県などで、世界20か国以上で施行されている親育ての３Ｐプログラムを実施した。その結果、子どもを誉める事の効果が改めて確認された。子どもが好ましい行動をしたときに、親がそれを認め誉めると、子どもは自然に好ましい行動をするようになるという。

東海林班：

① 葛飾区における妊産婦と家族に対するタバコとアルコールについての健康教育と評価についての研究を行った。葛飾区の保健所、５保健センターで実施するファミリー学級、及び休日パパママ学級に参加した区民を対象に、保健師が喫煙、飲酒についての知識と害について集中的に教育を行なった。教育前の知識については喫煙とＳＩＤＳ，乳幼児の事故、乳幼児への影響や胎児アルコール症候群は　知られていないことが判った。健康教育直後の理解状況から、出産後2ヶ月の時点で知識は継続している。父親の行動は母親の学級参加の有無では差がないが、父親の学級参加のほうが好ましい行動が多く見られた。

②山中は着用が進んでいないチャイルドシート意識調査をおこない、その結果をまとめた。また小児の事故についても防止のための継続的活動を行っている。

古荘班：

① 学校訪問:川崎市において専門医による学校訪問を行い、学校現場におけるさまざ

まな問題を提起した。具体的にはいじめと不登校、発達障害の理解の対策、虐待などの背景、学校関係者や子ども達の疲弊と抑うつ感情、子どもたちの自殺企図の増加、保護者の権利意識の増加の顕在化などである。

②中学生のＱＯＬ尺度作信頼性と妥当性の研究：中学生 2826 名（男子 1440 人、女子 1486 人、有効回答率９２％）を対象として調査を行いその結果を分析した。学年ごとにＱＯＬ得点、情緒的ｗｅｌｌ　ｂｅｉｎｇ，自尊感情が低下していた。性別による差はＱＯＬ得点では見られず、自尊感情の得点は男児のほうが高く、家族、友達の得点は女児のほうが高かった。

また、中学生の食事、睡眠とＱＯＬは密接に関係していると推測され、中学生においても基本的な生活習慣を遵守することは、身体の健全な発育に欠かせないと考えられた。

Ｃ．考察

健やか親子２１、次世代育成など育児支援を含めた少子化対策が推進されてはいるものの、子どもの育つ環境のますますの悪化が懸念されている。これを解決するためには問題は複雑で、それぞれの課題の具体的取り組方法を試行し、評価していくことが必要である。我々の班は健やか親子２１推進のための基礎的研究をおこなうものであるが、第１、３，４課題の３つの分担研究より構成されている。従って一つのことに焦点を絞って研究をおこなうことができないので、それぞれの課題の到達目標を達成するために役に立つであろうと考えられる複数の萌芽的研究をおこなった。来年度は評価委員会で指摘されたようにそれぞれの課題で、焦点を絞り研究をおこなう予定である。以下、各研究班の考察を行う。

前川班：

地域の実情に合った種々の支援システムが存在するが、住民参画の地域全体のシステムが理想である。愛知西尾地区のシステムはこの第一歩である。支援システムを拠点より面えするためには、親育てのシステムと、支援者養成のプログラムが必要である。子どもはふれあいにより育つ。保育園におけるタッチケアの効果は現代の子育ててはふれあい無しで行われているかを示すものである。子どもの歯の問題に関する小児科の小児歯科、心理、栄養などによる複数見解の統一的考えは育児不安の軽減に役立つ効果を挙げている。

東海林班：

葛飾区における妊産婦と家族に対するタバコとアルコールについての健康教育と評価についての研究を行った。葛飾区の保健所、５保健センターで実施するファミリー学級、及び休日パパママ学級に参加した区民を対象に、保健師が喫煙、飲酒についての知識と害について集中的に教育を行なった。喫煙と飲酒の健康教育は理屈では判っていても行動変容が難しい。

古荘班：

中学生におけるＱＯＬ尺度の研究をおこなっているが学童の心の問題、自尊感情の低下や生活習慣の乱れ、親の見方の乖離などいろいろのことが判明した。さらなる発展が期待される。

Ｄ．結論

健やか親子２１推進のための基礎的研究を

第１、３，４課題の３つの分担研究に分かれて行った。一つのことに焦点を絞って研究をおこなうことができないので、それぞれの課題の到達目標を達成するために役に立つであろうと考えられる複数の萌芽的研究をおこなった。来年度は各分担班ともに今までの成果を総括して、焦点を絞って研究を行う予定である。

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
住民参画と保健・福祉の協働による子育て機能の向上・普及・評価に関する研究
研究協力者報告書

育児支援に必要な階層化モデルとリーダーの条件

分担研究者　前川喜平（神奈川県立保健福祉大学）

要旨
地域全体の周産期よりの支援システムを構築するためには、支援システム構築と同時に、支援対象者（クライエント）と支援者の階層化を行ない、適切な組み合わせで行うことが効率的である。本研究において直接面接した各地域の子育て支援のリーダーと神奈川県実践教育センターが行った地域福祉改心活動の実践者の面接結果の分析を基にして、階層化モデルとリーダーの条件をまとめた。

A.支援に必要な階層化モデル

１．クライエントと支援者の階層化モデル

地域全体の周産期よりの支援システムを構築するためには、支援システム構築と同時に、支援対象者（クライエント）と支援者の階層化を行ない、適切な組み合わせで行うことが効率的である。階層化とは対象者においては問題の程度に応じて、支援者においては能力別に階層化を行うことをいう。階層化を行うためには対象者と支援者の教育が条件であるので、そのことについても記載する。

１）クライエントの階層化モデル

レベル ゼロ
情報提供：特に問題はないが、個々の家庭に合った情報提供が必要
レベルⅠ
軽度支援：育児不安などの問題があり、医師、保健師、臨床心理士などの継続的相談、助言が必要、あるいは適当な育児サークルを紹介し、加入することにより問題が解決される。
レベルⅡ
積極的支援：要支援家庭（ハイリスク家庭）：明らかな問題があり多職種（機関）・地域住民ボランテイアの連携による支援が必要。
レベルⅢ
高度積極的支援：虐待などの問題が既にあり地域支援システムに基づく、連携した支援が必要。

２）支援者の階層化モデル

階層化モデル作成に当たり、クライエントの個人的問題と家庭的問題（個人的問題も含む）に分けて作成した。

（１）　個人的問題の階層化モデル

①身の上相談者：ただ話を聞き、自分の意見をいう。　参考意見、問題解決なし

② 言葉を繰り返すだけ：相手に何か問題があることに気付き、どうにかしなくてはと相手の言葉を繰り返す。クライエントは言いたいことが見えてきて、気持ちが少し楽になる。ちょっとした問題解決にはなるが、自己成長にはつながらない。

③ 傾聴、受容、共感的繰り返しができる：気持ちが癒され、ちょっとした問題解決になる。隠れた本当の問題解決にはつながらない、自己成長につながらない。

④ ③＋カウセリング技法：気持ちがとても癒され、隠れた問題解決や自己成長につながる。 問題解決行動がとれる。（トラウマを癒せる）

⑤ ③＋高度のカウセリング技法：隠れた本当の問題解決ができる、問題の再発予のための自己成長を促進する。

（2） 家庭的問題の階層化モデル

家庭的問題

① 話を聴くだけ ①―③のレベル

② 問題点の抽出と対応方法が判る。

③ 必要な機関と連携がとれる。

④ キーパーソン、リーダーとして全体の支援体制をまとめる。

3）階層化による支援モデル

支援対象者レベル ゼロに対しては教育または経験を積んだ ②、③レベルの支援者、支援対象者レベルⅠに対しては教育または経験を積んだ ③、家庭的問題のときは②レベル以上の支援者の対応が好ましい。

支援対象者 レベルⅡ に対しては家庭的問題の ③以上の能力のある支援者

支援対象者 レベルⅢ に対しては家庭的問題の ③、④の支援者が適当である。

2．親育ち：前向き子育て3P 階層化モデル（加藤則子：和光市その他で実施中）

3．支援者の教育：中村 敬：板橋区で作成し実施中）

4．キーパーソン、リーダー、コーデイネーターの条件

現在までに直接面接した地域の子育て支援のリーダー（芦屋、津久井、福岡ひだまりの会、もくれんハウス、ハローカードなど）と神奈川県実践教育センターが行った、地域福祉推進活動の実践者 11 名の面接結果の分析を基にして、コーデイネーター・リーダーのコンピテンシーを纏めた。コンピテンシーとはある職種または状況に対し、基準に照らして効果的、あるいは卓越した業績を生む原因として備わっている個人の根源的特性を総称する概念である。（Lyle Spenser 2001）

B. リーダーの条件

① 問題解決志向並びに能力

始める動機がある：出産して子育てを始めたとか、保育園に勤務していて対応が必要なある問題に気付いたとか、地域における要支援家庭早期発見と支援とかの課題があり、自分がそれに取り組める立場におり、しかも課題を共有できる複数の仲間が存在する（津久井（共通認識をもつ保健師）、ひだまりの会（保育士）芦屋（民生児童委員）、わこう子育て支援 NPO（子育て仲間））などで、そこで活動のきっかけをつくる。

即ち、始める動機と場、仲間がおり、そこで何かをしようと活動のきっかけを作れる

ことが条件である。
例：子育てをしてみて、独りでするのはしんどい、皆で助け合ってする方法はないか。サークルからもくれんハウスに発展

② 情報収集並びに活用能力

地域情報を資源として活用し活動を開始する：

アンケート調査などで地域のなかに共通してある生活課題をピックアップするとともに、利用可能な地域資源を抽出し、最も効果的に共同行動がとれる課題を提示できる。解決の可能性も分析できる能力である。

③ 連携ネットワーク形成スキル(コミュニケーション連携スキル）必要人物や機関と連携する能力（連携・ネットワークスキル)：

関係者との間で具体的に関係調整を図り、活動するに当たり関係者のキーマンを見出し、活動のための明確な理解と説明、連携を促進するための価値概念、身近な地域の現実で共感を得て、活動の連携を得られる能力をいう。

④ リーダーシップ及びチームワーク形成スキル（組織結成、統合、発展能力)：

活動の経過においていろいろの意見が出て、活動が分裂する可能性があるとき、活動の分裂化を適切に対処できる。すなわち、活動を一定の方向へまとめられる能力をいう。

組織を維持し発展さす能力、チームワークマネジメント、新旧メンバーの温度差への認識、参加者の主体性を尊重、関係者の情報量の調整、過剰なリーダーシップの牽制、多様性の理解などを意味する。

これには住民に対し共感の拡大、状況をポジテイブに解釈する説明などの能力と広い視野と抱擁力も含まれる。

⑤ 地域特性活用能力：

地域情報（需要と資源）を活用した活動ができる。個別的地域知識住民特性の理解、地域を全体的視野で捉える姿勢などである。

「NPO法人子育てコンビニ」の活動について（事例報告　その2）

研究協力者　熊井利廣（杏林大学保健学部保健学科社会福祉学研究室助教授）

研究要旨

東京都三鷹市では、子育て中の親との協働という手法をとり、市のホームページ上に子育てに関するポータルサイトを設置した。親たちは、ＮＰＯ法人を発足させ、ホームページ作りを業務として受託している。ＩＴをツールとして使いながらも、地域で実際に人と人が出会う取り組みを展開しているのが特徴である。

業務の受託とはいえ市側の単なる下請けではなく、ホームページの役割や意義などについて、作成スタッフ自身がそれぞれに考えを持って企画、作成にあたっている。

市民にとって、人との出会いやホームページを閲覧することを通して、子育て中の親たちの様々な考え方、作成スタッフの多様な活動ぶりに触れ、そのことによって子育てしながらも社会に関わることができることや子育てすることの楽しさを知ることができているのではないかと思われる。

はじめに

本研究においては初年度（平成17年度）に、東京都三鷹市の取り組みを報告した。

三鷹市では、市および第3セクターである株式会社まちづくり三鷹が、子育て中の親との協働という手法をとり、市のホームページ上に子育てに関するポータルサイトを設置した。子育て中の親たちは市のホームページ作成に協力し、その後、「ＮＰＯ法人子育てコンビニ」を発足させ、ホームページ作りを業務として受託するようになった。今ではブログ講習会、企業、事業所のホームページ制作など幅広い活動を展開するにいたっている。

平成17年度報告では、ＮＰＯ法人子育てコンビニが作成する「子育てコンビニ」と名づけられたコンテンツの内容や訪問者数、作成手順などを紹介した。このなかで、コンテンツは基本的に毎月更新され、その内容は毎月1回開催される「みんなでつくろう！子育てコンビニ」と名づけられたワークショップと編集会議を経て作成されていくことを報告した。

「みんなでつくろう！子育てコンビニ」では、子ども連れの母親たちに、ＮＰＯ法人子育てコンビニのメンバーが加わり、自由に語り合う。「子育て中の親が子ども連れで集まって気軽におしゃべりできるサロン」、言いかえれば親たちが実際に顔と顔を合わせることを目指している。ＩＴをツールとして使いながらも、地域で実際に人と人がフェイス・トゥ・フェイスで出会う取り組みを展開しているのが特徴である。

そこで今回、「みんなでつくろう！子育てコンビニ」の具体的な様子を報告する。あわせて、ＮＰＯ法人子育てコンビニのメン

バーが「みんなでつくろう！子育てコンビニ」にどのような意義を見出しているか、また、自分たちの作成するホームページが果たす役割、自分にとってのＮＰＯ法人子育てコンビニについて、自分自身の気持ちや考えを自由に記述することを依頼したので内容を報告する。

1.「みんなでつくろう！子育てコンビニ」について

(1)会場等

「みんなでつくろう！子育てコンビニ」の開催は毎月１回。会場は、産業プラザ、子ども家庭支援センター、コミュニティセンター、市民協働センター、公園など様々である。時間は１時間半前後。参加者数は、親子連れ２、３組から、多いときは 14、5 組である。親同士の自由な交流の場となっている。

(2)開催の案内

「みんなでつくろう！子育てコンビニ」の開催案内は、ホームページ上で行われる。まず、冒頭に「毎回様々なテーマで、みなさんとおしゃべりする会です。初めての方も、お子さん連れでどうぞ気軽にいらしてくださいね！」と書かれている（図１）。

たとえば 2007 年 3 月には、「『学童保育について』の座談会」が行われる予定である。会場、日時の他、テーマの案内とともに、「三鷹市の学童保育の現状や学童保育への要望など、参加者みんなで色々なことを話し合えたらいいなと思っております。」と趣旨が述べられている。

(3)報告

「みんなでつくろう！子育てコンビニ」の様子は、翌月のホームページで報告される。例えば 2006 年 9 月には、「『働き方と子育て』座談会」が行われた。翌月のホームページには、保育園の状況をはじめ、家事のこなし方の知恵、子どもの病気のときの対応や悩み、社会全体のゆとりのなさ、子どもと過ごす時間の大切さなど、多くの話題、多様な意見や考え方があったことが紹介されている(図２)。

(4)テーマや内容

「みんなでつくろう！子育てコンビニ」では、時によって公園でお花見、クリスマスパーティなどのイベント、あるいは、お茶やお菓子を楽しみながらのフリートークが行われるが、ひとつのテーマを設定しての座談会が多い。テーマは、編集委員会で議論し決められる。表 1 に 2006 年 3 月から 2007 年２月までの主な内容についてまとめた。じつに様々なテーマで、親同士の意見、情報交換がされている。

(5)NPO法人子育てコンビニのメンバーの考え

ホームページの作成を行っているＮＰＯ法人子育てコンビニのメンバーは、「みんなでつくろう！子育てコンビニ」にどのような意義を見出しているのだろうか。編集委員として中心的な役割を担っている 4 人のメンバーに、「『みんなでつくろう子育てコンビニ』の意義はなんでしょうか」というテーマで自分自身の気持ちや考えを自由に記述することを依頼した。

Aさん

ホームページ作成にとっては、貴重

な情報源です。いろいろな方からの意見を聞き、参加していただくことが大切なのはモチロンですが、何より、実際に顔を合わせて話すことの重要性は、インターネットを使えば使うほどますます強く感じます。

また、ホームページ作成という目的や設定されたテーマがあるので、「子どもの友達作りのために・・・」「ママ友をつくらなくては・・・」というもやもやとした義務感みたいなものを感じずに参加できるのが、よいところだと思います。

子育て中の母親のために、「広場」があちこちで開かれていますが、だいたい同じようなカンジなのではないかな～と思います。そんな中で、ちょっと毛色が違ったものがあることは、重要だと思います。

「みんなでつくろう！」とはちょっと離れてしまいますが、私は、最初のボランティア募集のとき「子育て情報を発信するホームページを製作」という呼びかけがなければ、コンビニには参加していませんでした。子育ての息苦しさを抱えながら自覚できずに「何かうまくいかない」と思っているような層や、「子育て支援」に特に関心がない層を掘り起こす役割もあるのではないかと思います。

Bさん

今子育てをしている親たちが何に困っているのか、どんな情報を欲しいと思っているのかを知るための場所。核家族で孤独な子育てをしている主に母親たちが、社会に一歩出るチャンスとなり、孤独で辛い子育てから、地域で楽しい子育てをするための入り口と考えている。

また、子育てコンビニスタッフにとっては、新しい会員との出会いの場であり、ネットやメールでの繋がりをリアルにする場である。

この５年間、いったい何人の方が参加しただろうか？子育て後を視野に入れて、自分のスキルを仕事に生かしたいと思う人が、アロマテラピーや、マクロビスイーツなどで起業したり、ウエッブ作成や、パソコンの技術を生かして講習会などで活躍しており、正社員でもなくパートでもない新しい働き方の形ができてきているのではと思っている。

Cさん

ネット上では難しい、意思の疎通や意見交換を顔の見える関係で行うことができます。

インターネットをあまり利用しない人の意見や要望も「子育てコンビニ」の作成に取り入れることが出来るとともに、「子育てコンビニ」への理解や関心を深めることが出来る機会になっていると思います。

「子育てコンビニ」作成に携わっている人と参加者との交流により、活動への参加意欲を引き出す機会にもなります。

Dさん

いろいろな施設や市政の取材を経験

させていただくことで、利用者としての目線を伝えることだけでなく、提供者側の努力を知ることができ、視野が広がったように思います。

子育て真っ最中にあって、クラフト、料理、美容の分野で勉強をしている人たちから原稿をいただき「コラム」ページに掲載しているのですがこのような活動をしている方の情報発信手段としての役割も持っていると思います。「三鷹市」の名前を背負っているサイトから情報を発信できるというのは信頼性が大きいですし、多くの人の目に触れるチャンスでもあります

これからもそうした「活動」をお手伝いできたらいいなと思っています。

2. ホームページの役割やNPO活動の意義など～メンバーの自由記述から～

上記のテーマのほかに、今回、編集委員として中心的な役割を担っている4人のメンバーには、「ホームページ『子育てコンビニ』が果たしている役割はどのようなことだと思いますか」、「あなたにとって、『ＮＰＯ法人子育てコンビニ』とは」というテーマに関して、自分自身の考えや気持ちを自由に記述することを依頼した。

(1)「ホームページ『子育てコンビニ』が果たしている役割はどのようなことだと思いますか」

Aさん

インターネットの世帯普及率が70パーセント近くなり、あらゆる情報をいながらにして手にできるようになった今ですが、情報があふれすぎて、逆に、本当に知りたい情報・役に立つ情報・自分の求めている情報を探すことは難しいと思われます。そんな中で、同じ地域で、同じような目線で情報を選別している「子育てコンビニ」は、子育て中の家庭の情報源として有効であると思います。

作成する側として関わった場合、子育て中だからこそできること、子育て中の自分だからこそ伝えられるもの・持っているものが、他の多くの子育て家庭の役に立つということは、うれしいことではないでしょうか。

また、一人の母親としての目線としてではなく、「ホームページを見ているみんなの目線」を意識して地域の子育てを見ることにより、現在の子育て環境について客観的に考え、問題点を認識する機会となります。

市にとっては、市民参加・市民の力を信じ、市民による自由な情報発信を歓迎するという市の姿勢を示すことができ、よいPRになるのでは？と思います。

Bさん

市民にとっては、子育て情報を得る場。特に掲示板は核家族で子育てしている母親にとって頼りになる場所のようだ。育児本や雑誌、テレビなどに情報は溢れているが、みたか子育てねっとの子育てコンビニは子育て中の親に必要と思われる情報を選んでいるので、安心して利用することができると思っている。

Cさん

子育て中の保護者にとっては、外出せずに子育て情報の収集と提供を行うことができます。

ホームページ「子育てコンビニ」がなければ、普段知り合うことも難しい先輩ママからの情報や同じ子育ての悩みを持つ人との情報交換は難しいと思います

少子化の時代でもあり、公園や子どもの集まる場所での情報収集には限度があります。情報が氾濫する中、三鷹で子育てをする人たちに本当に必要な情報を提供していると思います。

Dさん

市民、特に子育て当事者には、「何が必要なのか、何に困っているのか」の発言権がないのですが、市民の声を行政に伝えるための手段の一つであると思います。

市役所にとっては市民が行政や市の施設を取材し、利用者の目線で発信するため、ある意味「お得」なシステムではないでしょうか。

(2)「あなたにとって、『NPO法人子育てコンビニ』とは」

Aさん

自分のできるところで自分ができるだけ頑張ったら「頑張ったね」と評価してくれるところ。ネットワーク大学のパネルディスカッションでもお話しましたが、私はゼンゼン志なく「子育てコンビニ」に参加しました。

でも「それでいいんだよ」というのが実は大切なんじゃないかな～と思っています！

気負わずに、できるところや、気になったところから一歩ずつ～仮に進まなくてもそれはそれでいい～、そんなふうに参加していけるゆるさがある存在が、必要なのではないか、と。そういう意味では、「通過点」であってもいいと思います。リハビリ、という言い方もできるかな？？？もっとやりたい人は自由にステップアップができて、別にそこそこでいいという人には、「そこそこ」のやることがあって、何もしたくないけど、誰かとつながっていたいという人にはつながれる場があって・・・。

野望を持っている人には物足りないだろうけれど、その辺の曖昧な「ゆるさ」、多様な選択を許容する幅が、NPO法人子育てコンビニだと思います。

Bさん

たまたまHPづくりのボランティア募集に参加して、子育てコンビニと出会ったのだが、今は、子育てコンビニが生活の中心になってしまっている。

小さな子どもを育てている沢山のお母さん方との出会い、わたしがかつてそうだったように、核家族で孤独で、子育てだけの生活になにか満たされないものを持っている人たちが、子育てコンビニの活動に参加することにより、生き生きと元気になっていくことがわたしにとって励みにもなり、喜びだった。

思いがけずに飛び込んだ、これまで馴染みのなかった社会活動だったので、

自分自身の子育て後の生き方や、今後の NPO の方向性を考えるために、福祉の勉強をしたりした。

それらも含め、子育てコンビニの活動をしてきたことは、自分自身の成長に役立ったと思っている。

Cさん

子育ても子育て支援活動も「一人でやるより皆でやればもっともっと楽しい！」と思える貴重な場です。子育てに限らず、一人では出来ないことは山ほどあるけど、色々な人との交流や協力によって実現可能であると気付かせてもらっています。

子育て支援を通して自分が成長していく姿を子どもにも見せていけたらと思っています。

Dさん

出会いの場であると思います。

子育て真っ最中でも自分の得意分野を生かして玄米菜食の料理を研究している方、生活を楽しむ術を追及している方、また、国立天文台の学生さん、行政側の方など、知的な刺激を与えてくれる人々との出会いは自分にとって非常に大きな刺激になりました。

3. まとめ

今回、ホームページを作成していくひとつの過程である「みんなでつくろう子育てコンビニ」の様子をみた。継続的に、子育て中の親が実際にフェイス・トゥ・フェイスで出会う取り組みが展開されていた。

そして、ＮＰＯ法人子育てコンビニのメンバーの文章からは、メンバー自身が様々なことを考えながら活動していることが分かった。

メンバーは、「みんなでつくろう子育てコンビニ」の意義を、ホームページを作成するための「貴重な情報源」と捉えている。しかしそればかりでなく、参加者が「実際に顔を合わせて話すことの重要性」も指摘している。そして、「孤独な子育てをしている母親たちが、社会に一歩出るチャンス」、「孤独で辛い子育てから、地域で楽しい子育てをするための入り口」という文章にみられるように、メンバーにとっての意義だけでなく、参加者にとっての意義をも明確に考えている。

また、コンテンツの内容について、「知り合うことも難しい先輩ママからの情報」や、三鷹市という地域で子育てする人にとって必要な三鷹の地域情報を提供しているという認識を持っている。

一方、こうしたホームページの存在は、市側にとっては、市の子育て支援サービスを利用者の立場に立ち、いわば「利用者の目線」で発信することになっていることを指摘している。さらには、「市民の力を信じ、市民による自由な情報発信を歓迎するという市の姿勢を示すこと」になり、市にとっても「よい PR になる」との指摘もしている。

そうして、こうしたホームページ作りは、「子育て中の自分だからこそ」できるのであり、「他の多くの子育て家庭の役に立つ」ことを「うれしい」と感じている。

さらに、「子育てだけの生活に満たされないものを持っている人たちが、子育てコンビニの活動に参加することにより、生き生

きと元気になっていくこと」を「励み、喜び」と感じている。

形としてはＮＰＯ法人子育てコンビニは、市の第３セクターである株式会社まちづくり三鷹から、企画、編集、取材など一連の製作業務を委託されている。しかしながら、業務の受託とはいえ、市側の単なる下請けではない。内容作りはメンバー同士の議論によっている。そして、ホームページの役割、「みんなでつくろう子育てコンビニ」の意義などについて、メンバー自身がそれぞれに自分なりの考えを持っている。それは行政と市民の協働のひとつのかたちを示しているだろう。

また、市民にとって、地域の子育て情報を得るだけでなく、地域で実際に人と人が出会うことやホームページを閲覧することを通して、ＮＰＯ法人子育てコンビニメンバーの多彩な活動ぶり、子育て中の親たちの様々な考え方に触れ、そのことによって子育てしながらも社会に関わることができることや子育てすることの楽しさを知ることができているのではないかと思われる。専業主婦かフルタイムの就労かの二者択一ではなく、多様な道があるというメッセージを、メンバーは身をもって発信しているといえるだろう。

女性の高学歴化・社会進出がすすんだ現在、母親にとって子育ては自分を制約するものとしてとらえられやすい。子育てと自己実現が相反するものと感じられ、子育ての不安・負担感につながりやすい状況のなかに多くの母親は置かれている。

専業主婦かフルタイム就労かの二者択一ではなく、社会へのかかわりをもちながら同時に子育ての喜びを感じられるような幅広い支援が必要と考えられる。そこには市民と行政の協働、子育ての当事者である親の参画が重要である。その可能性と課題について、さらに研究を続けたい。

謝辞　本稿作成にあたっては、ＮＰＯ法人子育てコンビニのメンバーをはじめ、株式会社まちづくり三鷹、三鷹市健康福祉部子育て支援室にご協力いただきました。記して感謝の意を表します。

図１

月に一回開催している「みんなでつくろう！子育てコンビニ」。
もう遊びに来ていただけましたか？
「みんなで作ろう！子育てコンビニ」は
毎回様々なテーマで
みなさんとおしゃべりする会です。
初めての方も、お子さん連れで
どうぞ気軽にいらしてくださいね！

今月のご案内

『学童保育について』の座談会を行ないたいと思います

前月まではこんなカンジです！

今までの「みんなでつくろう！子育てコンビニ」の記録です。

今月のご案内

３月の「みんなでつくろう！子育てコンビニ」は
『学童保育について』の座談会を行ないたいと思います

会場：三鷹市市民協働センター　第二ミーティングルーム

日時：３月17日（土）午前10時から11時

三鷹市の保育園待機児童は1歳児で約150人という現状です
認可保育所、認証保育所等に子どもを預けて働く家庭は増加しています
預かり保育を行っている幼稚園にお子様を預けて
パートタイム等で働くママも増えています

さて、お子様が6歳になり小学校に入学した後は
学童保育に預けることをお考えですか？

安心・安全の面からも
学童保育を希望する家庭が急増していることはご存知ですか？

三鷹市の学童保育の現状や学童保育への要望など、参加者みんなで
色々な事を話し合えたらいいなと思っております

座談会への参加希望・質問・ご意見、ご要望等はお手数ですが
3月13日(火)までに
sukusuku@mitaka.ne.jp にメールでお知らせ下さい

尚、参加希望者でお子様と同伴される場合は
お子様の年齢をお知らせ下さい

皆様のご参加をお待ちしております！

前月まではこんなカンジです！

2007 年 2 月「美容と健康について」情報交換会

★1月はお休みです★

2006年 12 月子どもと楽しいクリスマス(2006 年クリスマス特集)

2006年11月「保育園」座談会

2006年10月「幼児教育」座談会

2006年9月「働き方と子育てについて」座談会

2006年8月 「保育園について」座談会＆お子さまカフェ

2006年7月 「幼稚園について」座談会(幼稚園ページにジャンプします)＆ママカフェ

画像は、「Free Material Jupiter」さんからお借りしています。

図2

前月まではこんなカンジです！

2006年９月
「働き方と子育て」座談会

残暑の厳しい中、すくすく広場の2階にて「働き方と子育て」座談会を行いました

参加者は　大人6名、子ども5名の合計11名。お子様は最年少が4ヶ月、最年長が5歳です

土曜日の開催だった為、専業（主婦または主夫）の方の参加より育児休暇中の方や、保育園にお子様を通わせてお仕事をされている方の参加が多かったように思います。

比較的、「どのように働くか」「どのように預けるか」といったことに話題が集中しました。

今回は低いテーブルを囲んでの座談会となりました。4ヶ月のお子様はお母様のそばに寝かせたままお話することが出来ました。

まずは一人ずつ、自己紹介と「働き方と子育て」について、話題を挙げてもらいました。

挙がった項目は

・仕事が好きなので、働く時間を調整してでも働き続けたい。子どもは風邪などをあまり引かない強い子に育てたい。保育園1年目は病気になりやすいと聞いているので病後児保育等に関心がある。

・仕事と育児の両立は厳しく、仕事を辞めざるをえなかったが、女性の生き方、働き方の選択肢が増える方法を皆で考えたい。

・20年前は保育園の数が少なく、無認可の保育園には保育環境に問題があった。

・夫も育児休暇を取り、夫婦で協力して育児をする予定だが、認可保育園の入所は一斉入所の為、育児休暇中に入所できるのかが問題。入所後も勤務先が少し遠いこともあり、時間的にも仕事と育児のバランスを取れるのかが心配。

・育児休暇を取得し、その後は夫婦で送り迎え等、育児と仕事とのバランスをとっているが
子どもの病気の時などやむをえない事情があっても休みを取りづらい職場の環境などが
大きな問題。子育てを優先したいが、子どもを育てるためには、仕事をしてより多くの収入を得る必要がある。